

令和5年3月3日

ご利用者様、ご家族様、関係者の皆さま

社会福祉法人同胞互助会  
特別養護老人ホーム愛全園  
施設長 丸山 和代

## 新型コロナウイルス感染症施設内クラスター発生に関するお詫びと終息のご報告

この度、当施設で発生した新型コロナウイルス感染症施設内クラスターにつきましては、多くのご利用者様、ご家族様に多大なご迷惑とご心配をおかけしましたことを心よりお詫び申し上げます。

現時点において、新たに感染が確認されたご利用者様から一定期間以上の経過観察後に感染者が確認されていない状況を踏まえ、令和5年1月8日を始めとする施設内感染は、令和5年3月3日をもってクラスターの終息宣言をいたします。今後、一週間は健康観察期間として皆様の様子観察を実施いたします。

ご面会につきましては、予約制による陰圧室利用の対面面会、オンライン面会を令和5年3月10日より再開させていただきます。

今回の新型コロナウイルス施設内クラスターにつきましては、令和5年1月8日に感染者が確認されてから、フロアごとの行き来を完全になくすことで早期にロックダウンし、収まったかに見えましたが、その後、感染力の猛威に歯止めがかからず、瞬く間に感染拡大し、長期に渡る感染症対応に努めて参りました。連日、多摩立川保健所との連携により、施設にも来ていただき、エアロゾル感染についても、館内の空気の流れを再調査した上で、部屋の換気、廊下の窓の開放の徹底と、高性能フィルターを搭載した空気清浄機を設置しました。

しかし、ご利用者の多くが認知症の方であるため、陽性になった方々に部屋にとどまるようお願いしても伝わらず、隔離は困難を極めました。お部屋から出られないことで不安となり、廊下に出てこられてしまい、また、マスクを外してしまう方がほとんどであり、職員は、身を守りながら介護をしていくことにも限界がありました。クラスターが長期化する中、非感染者、濃厚接触者、感染者を分けて、食事の配膳、下膳、食事介助を行うことに、膨大な時間がかかり、連日の超過勤務が発生することで、疲労が溜まった職員が次々と感染していきました。また、感染者対応では、ガウン、手袋を介助ごとに全て取り換えることで、一回の夜勤で何十枚という感染ゴミが出ますが、感染ゴミは一定期間置いた上で廃棄する必要があることから、多量のゴミの廃棄についても、法人一丸となって行いました。また、防護服やN95マスク等の衛生用品、使い捨て食器等の備品など、この一ヶ月に使用したコストは400万円近くとなります。今回は東京都の補助金で何とか乗り切ることが出来ましたが、今後、新型コロナが5類となった際はインフルエンザと同様の扱いとなり、補助金は打ち切りとなることが予測されるため、都内全ての特養の大きな課題と言えます。

今回のクラスターで、何よりも一番こたえたことは、ご利用者の皆様に思うような介護をして差し上げられなかったことです。クラスター中に入浴は中止となりますので、一ヶ月間、清拭対応であり洗髪もできません。また、本来であれば、お看取りの方でも最後までお風呂に入って頂けていたことができなかったことは本当に申し訳なく思います。今までの“あたりまえ”を維持していくことが、どれだけ有難い事か、また、それを継続することが、どれだけご利用者にとって大切なことであるかを痛感しました。今後、専門家として、この経験を次に活かし、万が一、再び施設内クラスターが発生した場合においても、ご利用者の皆さまが安心して快適にご利用いただけるように私たちができる事を工夫し、努めていく所存です。今後とも皆様のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、この度の感染症発症に際し、多くのご家族様より励ましのお言葉を賜りました。心より感謝申し上げます。